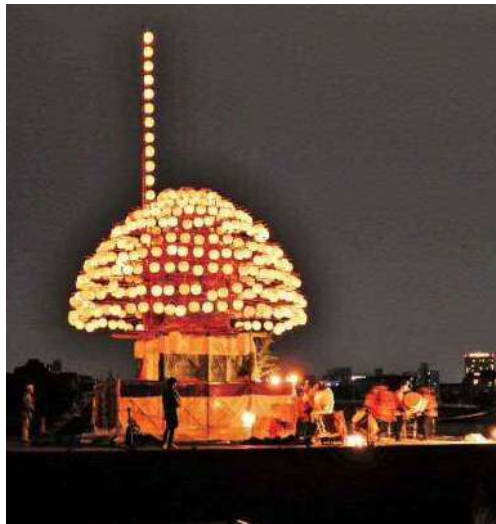
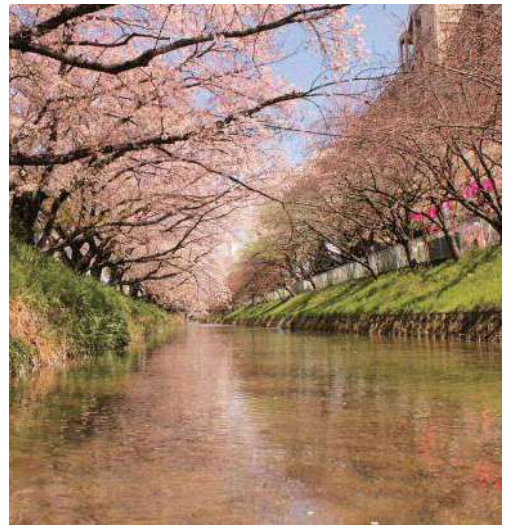




1

堀川のはじまり

堀川は、慶長15年（1610年）名古屋城の築城と時を同じくして福島正則により開削されたと伝えられています。

当時は名古屋城西の幅下と熱田宮の渡しとを結ぶ延長約6kmの川でした。

その後、上流部（黒川）の開削や下流部での新田開発などが進み、名古屋を南北に貫流する現在の堀川になりました。



■江戸時代の名古屋
(大日本五道中図屏風 三井記念美術館所蔵)

2

堀川の盛衰

現在の様に鉄道や自動車等の物流手段が発達していなかった江戸時代～昭和中頃までの間、堀川は、木材、穀物、海産物、諸雑貨などを運ぶ物流の大動脈として市民の生活やまちの発展を支えてきました。

また、魚介類を採ったり、泳いだり、花見の名所としてなど、多くの人々に親しまれる憩いの場でもありました。



■江戸時代の納屋橋の南東にあった年貢米を納める蔵の図
(尾張名所図会 名古屋都市センター着色)



■江戸時代の後期に桜や桃が植えられ、花見の名所となった日置橋周辺の様子
(尾張名所図会 名古屋都市センター着色)

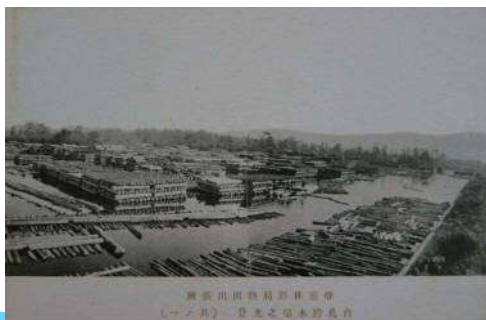
一方で、名古屋が産業都市へ成長を続けていた大正時代の終わり頃から、堀川は水質汚濁など、それまでにない困難な問題が見られ始めました。

さらにゴミの不法投棄が追い打ちをかけ、昭和41年（1966年）に水質汚濁はピークを迎えました。

また、物流手段としての役割も、水上交通から陸上交通に移行し、人々は水辺から遠ざかっていきました。



■多くの船が往来していた昭和初期の堀川



■現在の国際会議場にあった白鳥貯木場
(帝室林野局名古屋支局熱田出張所貯木場絵葉書)



■水質汚濁が著しかった昭和40年代の堀川
(名古屋城西側付近)

3

堀川の再生

昭和61年（1986年）「堀川の大改修」が市政百周年記念事業に位置付けられ、平成4年（1992年）にマイタウン・マイリバー整備計画が認定されると堀川の整備は大きく進み始めました。

現在は、護岸の整備と河道掘削にあわせたヘドロの除去を順次進めるとともに、水辺環境や水質の改善に努めているところです。

また平成11年（1999年）頃から堀川の再生を目指す市民運動が活発となり、様々な活動が展開されるようになりました。

■マイタウン・マイリバー整備事業により市街地整備や道路・公園などと一体的に整備された3つの地区



納屋橋地区（遊歩道）



黒川地区（北清水親水広場）



白鳥地区（白鳥プロムナード）

4

堀川と環境

様々な活動や水質浄化の取り組みにより、水質を始めとする水辺の環境が改善され、姿を消していた魚や水鳥たちが戻ってくるようになりました。

現在では、様々な生き物が確認され、市内でも貴重な魚の生息地にもなっています。

一方で、ペットの放逐と考えられるものも含め、様々な外来生物も確認されており、それらの魚が増えて、大きな環境変化につながるのか注意していく必要があります。



タモロコ



ぜぜら



スミウキゴリ



オオクチバス
（外来種）

■堀川で確認されている魚の一部

5

にぎわいの復活

市民活動の高まりとともに、堀川で市民イベントが催されるようになり、にぎわいを取り戻してきています。

名古屋市もこうしたにぎわいづくりの取り組みを支援しています。



■堀川まつり
熱田区では、初夏にまきわら舟を復活させた市民のまつりが開催されている。



■友禅流しの復活
北区では、春に伝統産業の「名古屋友禅」の再興を願ったイベントが開催されている。

1



■庄内用水頭首工

堀川の上流端。庄内川の水を頭首工でせき止め元枳樋門から通水。

2



■元枳樋門

庄内用水頭首工から庄内川の水をとりえている。

3



■御用水跡街園

名古屋城の堀に水をひいていた御用水の跡に、堀川に沿って散歩道が整備され、桜の名所にもなっている。



4



■猿投橋 落差工

堀川唯一の落差工。河口から13kmのこの地点まで潮の干満の影響を受ける。

5



■朝日橋 船着場

開削当時の堀留。これより上流は明治10年(1877年)に開削された。現在は船着場が設置されている。



6



■五条橋と親水広場

堀川七橋ともいわれる 堀川開削当時からある七つの橋(紫で表示)のうち最上流の橋。橋の西側には船への乗降もできる広場が整備されている。



7



■四間道

堀川の西側に残る四間道と呼ばれる古い町並み。土蔵や古い商家が立ち並んでいる。

堀川MAP

● 堀川再発見

堀川は名古屋の母なる川として、歴史や文化を語る大切な宝物です。そして、うるおいと活力をもたらす魅力軸でもあります。堀川端を自分の足で歩いて自分の目で確かめてみませんか。堀川沿川にはさまざまな風景があります。

● 堀川の諸元

水系・種別 庄内川水系・1級河川
延長 16.2km
上流端 庄内川からの分派点(守山区大字瀬古)
下流端 名古屋港
流域面積 52.85km²(市域面積の約6分の1)



■納屋橋とその周辺

納屋橋は南北軸の堀川と東西軸の広小路通が交差する名古屋発展の中心。周辺には遊歩道や親水広場、船着場が整備されている。遊歩道や親水広場では、にぎわいづくりを目的としてオープンカフェやイベントが行われている。

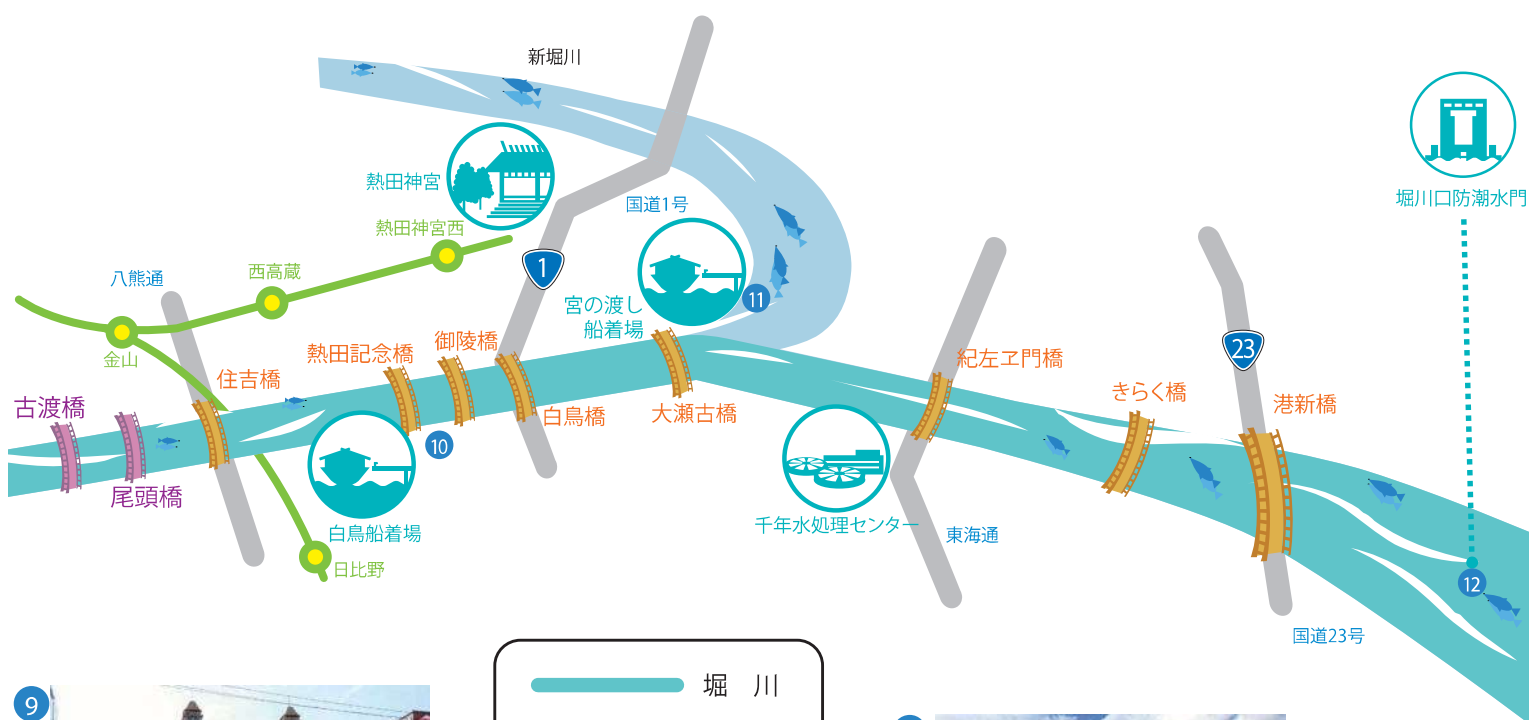


納屋橋に隣接する旧加藤商会ビルは、昭和6年(1931年)に建てられたもので、平成13年(2001年)に国の登録有形文化財に指定され、現在は、レストランとギャラリーとして有効活用されている。



■宮の渡し

東海道唯一の海路「七里の渡し」(宮～桑名)の渡船場があった場所。現在は、船着場とともに、周辺は歴史性豊かな公園として整備されている。



■松重閘門(市指定文化財)

かつて堀川と中川運河の水位差を調節し、最盛期には年間6,000隻を越える船が行き交った。



■白鳥公園と一体整備されたプロムナード(遊歩道)

白鳥公園や国際会議場への来場者も多く、多くの市民が散策するなど憩いの場となっている。また船着場も整備されている。



■堀川口防潮水門

伊勢湾台風を契機に、市域を高潮から守るために造られた水門。

名古屋市の取り組み

河川整備・水質浄化とともに、民産学官と協働し堀川を活かしたまちづくりに取り組んでいます

護岸の改修



ヘドロの除去（河道掘削に合わせて実施）



瀬・淵の形成



設置後



設置前

浅層地下水の活用



ごみキャッチャー（浮遊ごみの自動除去施設）



堀川まちづくりの会の運営



堀川ラウンドテーブル



<http://horimachi.jp/>

堀川でつながる、「ひと」と「まち」

堀川浄化や にぎわいづくりをめざす市民団体などの活動の様子です

春



●堀川フラワーフェスティバルでは、納屋橋周辺が市民作成の花飾りで彩られ、様々な催しを開催

夏



●古い町並みを残す四間道地区の円頓寺商店街では、市内屈指の七夕まつりが催され、多くの人でにぎわう

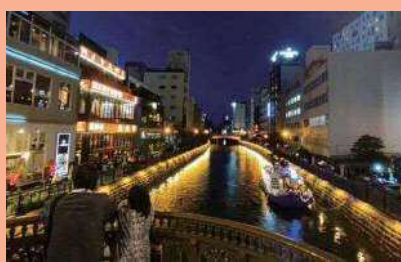


●上流部では、自然観察会が開催され、川に親しむ機会となっている。

秋



●円頓寺商店街はパリの商店街と姉妹提携をしており、パリ祭が開催され、多くの人でにぎわう



●堀川ウォーターマジックフェスティバルでは、納屋橋を中心に船を活用した多様な催しを開催



●熱田区内では堀川沿川を含む複数会場で「あったか！あつた魅力発見市」が開催される。

通年



●納屋橋周辺で定期的に行われるにぎわいイベント

冬



●納屋橋地区はイルミネーションで彩られる



●様々な市民団体により行われている清掃活動



毎年春と秋には一斉大そうじを実施



●沿川の歴史や文化を訪ねるまちあるき



●市民団体による水質調査



●堀川1000人調査隊会議



●小中学校で環境や歴史を学習



●ホリゴン
堀川のイメージ
キャラクター

堀川年表

慶長 15 年（1610）	閏 2 月 6 月	名古屋城築城に着手。慶長 17 年（1612）12 月には、ほぼ完成 福島左衛門大夫正則が御普請惣奉行になり堀川開削工事に着手 辰の口～熱田、筏入津可能。熱田より築城地の下まで舟入開削工事着手 「清須越し」がほぼ完成し、名古屋城下町の基礎ができる 白鳥貯木場が整備される（当時は、堀川東岸。平成 8 年に貯木場機能停止） 木ノ免・大瀬古（現：熱田区）に魚問屋 8 戸を置き、魚市場を開く 堀川の両岸が少しづつ崩壊するので、石垣とすべき旨が仰せ出される 現在の守山区竜泉寺下の庄内川から名古屋城のお堀まで御用水路を開削 住民により「冥加浚え」が行われる。その後、天保 7 年（1836）嘉永 2 年（1849）にも実施 大幸川を堀川につなぐ工事を施工 御普請奉行堀彌九郎が、堀川の日置橋付近の両岸に、桃と桜の樹数百本を植える 桜の増殖が長畝付近でおこなわれる 堀川に年々堆積する土砂を、愛知県の常例工事として、しゅんせつすることとなる 黒川の開削工事完了 犬山と名古屋間の船による運送事業の開業式開催（大正 13 年廃止） 300 石以上の船舶は、納屋橋より上流への渡航禁止 堀川河岸地共同荷揚場及び河岸地取締規則施行 堀川改修（しゅんせつ、一部護岸）工事費を県会にて議決（工期 4 年） 新堀川開削工事完了 瀬戸電気鉄道（現：名鉄瀬戸線）の堀川と瀬戸間が全通 堀川駅の営業開始 納屋橋、鉄鋼アーチ橋に改築 朝日橋～景雲橋、洲崎橋～山王橋のしゅんせつを愛知県が実施 中川運河が全通し、堀川とつながる 大幸川合流点～朝日橋の改修事業完了（昭和 6 年着手） 木曽川からの清水流注試験を約 1 週間実施 （5.4 ～ 8.1 m ³ / 秒 昭和 14 ～ 16 年度まで毎年 2.5.8.10 月 随時の計 5 回 約 1 カ月間実施） 朝日橋～名古屋港の改修事業完了（昭和 2 年着手） （社）名古屋清港会結成 堀川水面の清掃開始 伊勢湾台風により大きな被害を受ける 堀川浄化のため庄内川から試験通水開始（1.1 ～ 3.8 m ³ / 秒を適宜実施 昭和 50 年まで） 堀川口防潮水門完成 しゅんせつ事業を愛知県が開始（昭和 58 年度まで）名古屋市も費用の 1/2 を寄付 水質悪化のピーク（BOD：54.8 mg / ℓ） 通行船舶の減少により、中川運河の松重閘門を閉鎖 堀川が一級河川に昇格 水質汚濁に関わる環境基準の水域類型が指定される 御用水跡環境整備事業（御用水跡街園）事業完了（昭和 47 年着工） 名鉄瀬戸線が栄乗り入れとなり、堀川駅～土居下駅が廃止 納屋橋架け替え工事完了（欄干は大正 2 年建設の旧橋のものを再利用） 流況調整河川木曽川導水事業に着手（平成 12 年中止） マイタウン・マイリバー整備河川第 1 号の指定 堀川総合整備構想を発表 マイタウン・マイリバー整備計画が認定され、以後本格的に整備が始まる へドロしゅんせつ工事開始（河川環境整備事業 平成 19 年度まで） 地下鉄上飯田連絡線の工事に伴う地下水の堀川への放流開始（平成 13 年 8 月まで） 庄内川からの試験導水（0.5 ～ 3.0 m ³ / 秒 9 月 3 日まで） 庄内川から堀川へ 0.3 m ³ / 秒の暫定導水を開始 庄内川からの試験導水（0.3 ～ 1.0 m ³ / 秒 5 月 31 日まで） 第 2 期水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンスⅡ）の公表 浅層地下水の汲み上げ放流を開始（以降、順次増設） 河川敷地占用許可準則の特例措置による社会実験実施区域の指定（納屋橋地区） （平成 17 年 3 月～平成 24 年 3 月） 堀川ギャラリー（旧加藤商会ビル）オープン 木曽川からの導水による社会実験開始（0.4 m ³ / 秒 平成 22 年 3 月まで通水） 河川管理権限が愛知県から名古屋市に移管 堀川開削 400 周年記念事業として「堀川 400 年祭」を実施 庄内川からの導水による社会実験実施（0.7 m ³ / 秒に増量 11 月 2 日まで） 一級河川庄内川水系堀川圏域河川整備計画を公表 堀川納屋橋地区水辺活用推進事業の本格実施 堀川まちづくり構想を策定 堀川まちづくりの会発足
天明 4 年（1784）	冬	
文化 元年（1804）		
安政 7 年（1860）	2 月	
明治 4 年（1871）	7 月	
明治 10 年（1877）	10 月 10 日	
明治 19 年（1886）	9 月 29 日	
明治 24 年（1891）	5 月 1 日	
明治 32 年（1899）	10 月 1 日	
明治 39 年（1906）	9 月 16 日	
明治 43 年（1910）	2 月 23 日	
明治 44 年（1911）	10 月 1 日	
大正 2 年（1913）		
大正 14 年（1925）		
昭和 7 年（1932）	10 月 1 日	
昭和 8 年（1933）	3 月	
昭和 12 年（1937）	5 月	
昭和 14 年（1939）	3 月 31 日	
昭和 34 年（1959）	2 月 5 日 9 月 26 日	
昭和 38 年（1963）	5 月 2 日	
昭和 39 年（1964）	8 月 15 日	
昭和 40 年（1965）	12 月 7 日	
昭和 41 年（1966）	頃	
昭和 43 年（1968）	11 月 1 日	
昭和 44 年（1969）	4 月 1 日	
昭和 45 年（1970）	9 月 1 日	
昭和 49 年（1974）		
昭和 51 年（1976）	2 月 14 日	
昭和 56 年（1981）	10 月 10 日	
昭和 58 年（1983）	4 月	
昭和 63 年（1988）	6 月	
平成 元年（1989）	3 月 31 日	
平成 4 年（1992）	1 月 13 日	
平成 7 年（1995）	2 月	
平成 10 年（1998）	9 月	
平成 11 年（1999）	9 月 2 日	
平成 13 年（2001）	7 月 23 日	
平成 16 年（2004）	4 月 10 日 8 月 26 日	
平成 17 年（2005）	1 月 21 日	
	1 月 22 日	
平成 19 年（2007）	3 月 27 日 4 月 1 日	
平成 22 年（2010）		
	10 月 5 日 10 月 13 日	
平成 24 年（2012）	4 月 1 日 10 月	
平成 25 年（2013）	7 月	